（ R05 様式　4 ）

令和　6　年　2　月　21　日

教　育　長　様

代表者	校 園 名：	大阪市立茨田南小学校
	校園長名：	宇野　多加志
	電　　話：	６９１１－２００１
	事務職員名：	奥田　明香里
申請者	校 園 名：	大阪市立茨田南小学校
	職名・名前：	校長　宇野　多加志
	電　　話：	６９１１－２００１

研究コース	
Ｓ　研究テーマ指定（Ａ）	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
701571	
選定番号	304

令和５年度　「がんばる先生支援」研究支援　報告書

◇令和５年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	Ｓ　研究テーマ指定（Ａ）	研究年数	継続研究（２年目）
2	研究テーマ	ＩＣＴを活用した「主体的・対話的で深い学び」の追求			
3	研究目的	本研究を行うにあたって次のことを目的とする。 ○ 主体的な学びの充実 ・児童が「学びたい」と意欲をもって取り組むことができる学習単元・学習活動・教材の開発。 ○ 対話的な学びの充実 ・対話的な学びのための子ども同士の協働、教職員・地域の方々等との対話を通じ、自己の考えを広げ深めるようにする。 ○ 深い学びの充実 ・「見方・考え方」を働かせて知識を相互に関係づけてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり問題を見出して解決策を考えたりすることができるようにする。 ○ １人１台端末時代の学びの在り方をさぐる。 ・「個別最適化」と「協動的な学び」の在り方について研究を深める。 ・児童・教職員のＩＣＴ活用能力の向上を図る。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSｺﾞｼｯｸ 9.5ﾎﾟｲﾝﾄ） 本校ではコロナ禍以前よりＩＣＴ機器の授業への活用をテーマに研究を進めており、その中で昨年度指定を受け、「ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の追求」をテーマに、新たに研究をスタートさせた。新学習指導要領を踏まえながら、すべての教科において実践的研究に取り組んできた。「Teams」を活用したオンライン授業に加え、ロイロノートを活用した授業展開の研究、プログラミングの授業においてのビスケットの活用等すべての校内研究授業において「主体的・対話的で深い学び」の追求を念頭に置きながら「授業展開」「発問の工夫」「効果的な端末の活用」を視点としての研究に取り組んだ。その過程で児童が端末を利用し学習活動を充実させ、主体的・対話的に学ぶための課題も出てきた。そこで今年度は、さらなるICTの学年に応じた力の追求を行いつつも、教科を国語科・算数科に定め、どのような授業展開をしていくと児童が主体的・対話的な深い学びにつながっていくのかを追求することにした。 具体的には以下の二つの視点を踏まえ授業実践を行った。 視点①　積極的に学び合える授業展開の工夫 各教科の学習段階を踏まえ、本時はどのような発問によって学習課題に迫れるのかを考え工夫する。発問を工夫することで児童の深い学びにつなげていく。指導者が各教科での発問の工夫を日ごろから意識していく。 視点②　より効果的な個別最適な学びのしかけ 自分の考えを自主的に表現したり、交流・比較したりすることを取り入れる。考えを深める方法として、ノートの振り返り、ICT端末の活用、ペアトークやグループなどが考えられる。それらを活用できるよう、指導者が工夫して活用していけるように学習展開を考える。 ICTを活用する際には学習単元のどの場面で活用するとより有効となるか考慮していく。 また今年度も、和歌山大学の豊田充崇教授を招聘し、これまでの取組の課題と成果について振り返る貴重な機会を得た。			
5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	令和　5　年　9　月　27　日	参加者数	約　30　名
		場所	大阪市立茨田南小学校		
		備考	和歌山大学教職大学院　豊田　充崇 教授　の指導を受ける。		

6	成果・課題	大阪市教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。
		【見込まれる成果１】 ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☐ 教員の資質や指導力の向上 ICTを活用することで児童の学習意欲が高まる。 ≪検証方法≫ 学校生活アンケート（児童）で「あなたはタブレットやデジタル教科書を使った学習は楽しいですか」の項目の肯定的回答の割合を８５％以上にする。
		〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「あなたは、タブレットやデジタル教科書を使った学習は楽しいですか」の項目の肯定的回答は８８％であり、目標を上回ることができた。ＩＣＴを積極的に活用していくことで、引き続き児童は高い学びの意欲をもっている。
		【見込まれる成果２】 ☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 ICTを活用することで授業の質が高まり、「わかりやすい」授業を行うことができ、児童の学力が向上する。 ≪検証方法≫ 学校生活アンケート（児童）の「あなたは、授業がよくわかりますか。」の肯定的回答の割合を８０％以上にする。
		〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「あなたは授業がよくわかりますか」の項目の肯定的回答の割合は９３パーセントになり検証指標を大きく上回った。昨年度の同項目の回答割合は９０％であり、昨年度以降も低下することなく、高い数値を数値も維持することができた。ＩＣＴを活用することで児童の理解が深まり「授業がよくわかる」とする児童が多いと考えられる。
		【見込まれる成果３】 ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☐ 教員の資質や指導力の向上 児童の情報活用能力が高まることで児童の自己肯定感が高まる。 ≪検証方法≫ 学校生活アンケート（児童）「自分には、よいところがある。」の肯定的回答の割合を７５％以上にする。
		〔検証結果と考察〕 学校生活アンケート（児童）「自分にはよいところがある」の項目の肯定的回答の割合は８６％になり目標の数値を大きく上回った。昨年度の数値は７８％で、それも大きく上回っている。ここ数年取り組んできたことが着実に成果として現れてき始めていると感じる。今後もさらに自己肯定感を高め、自尊感情を育めるよう、児童一人ひとりに自信をつけさせたり、良さを発信したりする取り組みを授業以外の場面でも行っていきたい。

研究コース　S　研究テーマ指定（A）　選定番号　304

代表校園　大阪市立茨田南小学校　校園長名　宇野　多加志

6	成果・課題	【見込まれる成果４】 ☐ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 校内研究が活性化し、教職員の授業力が向上する。 ≪検証方法≫ 教員アンケート「学習に対する児童の興味・関心を高めるためにコンピューター等を使って効果的に教材を提示することができる」に肯定的回答をする教員を８０％以上にする。
		〔検証結果と考察〕 教員アンケート「学習に対する児童の興味・関心を高めるためにコンピューター等を使って効果的に教材を提示することができる」に肯定的に回答をする教員を８０％以上にすることができた。ほとんどの教員がデジタル教科書や、ロイロノート等を利用して授業に取り組み、教材研究をすることで教員のＩＣＴ活用能力が高まってきたといえる。

【研究全体を通した成果と課題】　研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。

1. 新規研究（１年目）　※継続研究２年目以降は１年目の記載をコピーして貼付する

教育活動における様々な規制が和らぐ中、積極的に研究に取り組み、研究授業、研究協議、講演会を行うことができた。オンラインでの研究授業やプログラミングの研究授業も行うことができ、様々な成果と課題を得ることができた。（成果）

・ＩＣＴを積極的に活用することで、児童の学習意欲が高まった。
・全校で共通理解して学習ルールがさらに徹底できたので、学校全体として児童の学びに向かう姿勢づくりができた。
・ＩＣＴを活用することで児童の情報処理能力が高まるとともに授業の質も高まってきた。
・教員のＩＣＴ活用能力は年々高まってきた。研究の幅を全教科に広げたことで教員の指導力も高まった。

（課題）豊田教授から、様々な思考ツールやアイテムの紹介を受け研究授業等で試行錯誤しながら研究に取り組んだが、まだ十分に学年に応じた能力をつけたとはいえない。個々に支援が必要である。１人１台パソコン体制の可能性をさらに探っていき授業づくりの在り方を研究していく。

２．継続研究（２年目）　※継続研究３年目の場合は、２年目の記載をコピーして貼付する

・新しい課題に対して、児童が自らのひきだし（前時のノートやPCの記録）から見通しをもって考えることができつつある。主体的・対話的に学ぶ仕掛けを研究したことで、国語科・算数科以外のほかの教科でもそれを生かした。
・一人一台端末を活用することで多くの児童が主体的に取り組む事ができた。国語・算数・道徳等でペアトークを取り入れた学習を行ってきたため、児童は自分の考えを相手に伝えたり、相手の半紙を聞いたりする事は自主的にできるようになった。
・ICTの活用による教員のスキルアップができた。
・個別最適な学びを実現するための様々な手立てに挑戦できた。

今後の課題

・個別最適化の難しさがあった。今まで実践してきたICTの活用やヒントカードなどを超えるような実践がなかなかできなかったこと。
・個別最適化の定義が人によって違うので難しかった。
・ペアでの活動を取り入れることはできていたので学年・内容に合わせてグループでの活動も取り入れるとよいかと思った。
・主体的・対話的で深い学びに導くための研究は、様々な教科でも必要なことなので今後も継続していく。本校の児童がどのように育ってほしいか実態や発達段階に合わせた課題をもつ。

３．継続研究（３年目）

≪代表校園長の総評≫

1. 新規研究（１年目）　※継続研究２年目以降は１年目の記載をコピーして貼付する

茨田南小学校においては、これまで３年間、「ICTを活用した『主体的・対話的で深い学び』の追求」をテーマに「がんばる先生支援」に選定され、研究活動に取り組んできた。

この３年間はコロナ禍の真っ只中であり、予測不能な事態への対応並びに１人１台体制・教育情報システムの導入など新しいシステムへの対応に迫られる中であり、変化に対応する学校づくりが求められるものであった。

その中にあって、本校の研究こそ「ピンチをチャンスにできる取り組み」ととらえ、本研究実践に教職員一同真摯に取り組んできた。その成果と課題について公開授業や学校ＨＰ・研究紀要等で広く公開してきたところであり、これらの取り組みを進める中で、児童の学力・教職員の授業力も着実に向上してきている。

本年度は、これまでの研究成果をさらに発展させ、１人１台端末体制のもと、「個別最適な学び」と「協動的な学び」の一体化を図りながら、如何に問題解決型の学習過程を進めていくか等、新しい時代の学習モデルについて研究を深め、その成果を公開授業や研究紀要等で大阪市学校園と共有を図っていく。

その研究・実践に取り組む中で、本校教員の授業力向上を更に図り、児童の学力向上も図ってまいる所存である。

以上により、本研究は、大阪市の教育活動の推進に大きく寄与できるものと考える。是非選定をお願いしたい。

２．継続研究（２年目）　※継続研究３年目の場合は、２年目の記載をコピーして貼付する

本校では、コロナ禍以前の平成30年度より「ICT機器を活用した『主体的・対話的で深い学び』の追求」を研究主題として継続してICT機器を積極的に推進してきた。

本年度は「『主体的・対話的で深い学び』に導く授業展開の追求～国語科・算数科の学習～」を研究主題に設定し、国語科･算数科に教科を絞り、授業を展開する上での効果的な発問やアプローチ、学習ツールの工夫などを追及する実践的な研究を重ねてきた。その中で、「がんばる先生支援」での継続研究である「「ICTを活用した主体的・対話的で深い学びの追求」の選定校として、年間を通じて、ICTを活用した授業を全教職員で積み重ねながら、指導案作成、検討会、公開授業等に、教職員一丸となって取り組んできた。

研究実践を進める中で、児童たちのタイピングの技術の向上は年々目を見張るものがあったり、校内アンケートにおいて「ICT機器を活用すると学習が楽しい」の問いに肯定的な回答をする児童の割合が９０%に迫ったりして、生き生きと端末に向かい学習に取り組む児童の姿が増えてきたことや、活発にグループワークで意見を交換し合う児童の姿、あるいはロイロノートを利用して積極的に授業者に発信する児童の様子が伺えた。それにともなって、そのことが教員の自信にもなり、さらに研究を深めたり、ICTスキルの習得を深めたりする意欲へとつながった。

教員センターの移転、組織の改編により、次年度はSグループの指定からは外れることになるが、今後ともICT機器の積極的な活用を念頭に、様々な教科等の研究に邁進していければと考える。

３．継続研究（３年目）